

島根原発2号機再稼働ストップへ

原発ゼロの会が総会開く

原発ゼロをめざす島根の会は12日、松江市内で総会を開きました。



岡崎由美子共同代表（弁護士）は、中国電力・島根原発2号機の再稼働（12月予定）について「能登半島地震は原発の危うさを警告した。みなさんと力を合わせ、再稼働ストップへ頑張っていきたい」とあいさつしました。

行い、島根原発2号機の再稼働同意の撤回▽能登半島地震で明確になった避難計画の実効性について避難要支援者などから直接の聞き取りの実施などを求めていく「2024年度活動方針」を採択しました。総会後、参加者は県庁前で「島根原発2号機の再稼働反対です！」「原発事故が起きたら避難はムリ」などのプラカードを掲げてアピールしました。（写真）



三上智恵監督作品 映画「戦雲」上映会の開催について

「台湾有事」の名のもとに、沖縄県や鹿児島県の島々では、「敵基地攻撃」のためのミサイル基地や弾薬庫が次々と建設されています。

島民は生活しなげればなりませんから、漁に出て、作物を育て、牛を飼育する…一見何も変わらないように見えます。しかし「戦雲（いくさぐも）」に覆われているのです。その「戦雲」は、確実に、沖縄に基地を押し付けてのほほんとしている本土の私たちの上にもあるのです。

美しい、のんびりとした、独特な歴史や文化をもった南の島々は、今や軍事基地だらけの島に。

これがこの何年間の、あつという間の出来事なのです。島民は生活しなげればなりませんから、漁に出て、作物を育て、牛を飼育する…一見何も変わらないように見えます。しかし「戦雲（いくさぐも）」に覆われているのです。その「戦雲」は、確実に、沖縄に基地を押し付けてのほほんとしている本土の私たちの上にもあるのです。

三上智恵監督最新作 戦雲 いくさぐも

本場の「国防」とは何か？ 圧殺されるのは沖縄の声だけではない

三上智恵監督 6年ぶり 渾身の最新作

石川県 富山県 福井県 岐阜県 愛知県 静岡県 長野県 山梨県 東京都 千葉県 埼玉県 茨城県 栃木県 群馬県 新潟県 富山県 石川県 福井県 岐阜県 愛知県 静岡県 長野県 山梨県 東京都 千葉県 埼玉県 茨城県 栃木県 群馬県 新潟県

浜田 7月28日(日) いわみーる 301 研修室
松江 8月11日(日) 松江市民活動センター 交流ホール

島根原発2号機再稼働ストップへ ～能登半島地震(志賀町、輪島市)視察・報告④～

視察報告の連載・最終回は、尾村利成県議が能登半島視察を踏まえて議会質問した内容を紹介します。

●島根半島の孤立集落対策の強化、救援計画の実効性の向上を

能登半島地震では、避難ルートの大半が通行止めになり、孤立集落が相次ぎました。もし原発事故が発生していたならば、避難できず、被ばくの危険がありました。島根原発直下を走る宍道断層（39km）の真上・近傍には、1236カ所（旧松江市・橋北793カ所、旧鹿島町176カ所、旧島根町96カ所、旧美保関町171カ所）の土砂災害危険箇所があります。宍道断層が動けば、この地域においても孤立の事態となる恐れがあります。県は島根半島の孤立集落対策として、陸上自衛隊の協力を得て、臨時ヘリポート調査を実施し、約70カ所をヘリポートの離着陸可能適地としています。

私は6月県議会で、森本敬史防災部長に対し、「今後、関係自治体や関係者との協議をはじめ必要なる整備、孤立への不安解消を含めた関係住民の意見を聞く場を設定するなど、救援計画の実効性を高める対策が必要」と質しました。森本防災部長は「今後、必要に応じて整地などの整備を行った上で、緊急消防援助隊などの人員を投入して迅速に住民の救助や物資の搬入が行えるよう救助要綱を作成することとしている」と応じました。

●石川県では実際の被害と被害想定が大きく乖離——島根県も被害想定を精緻化する

石川県では、地震が元日に発生したことを受け、地震発生時間帯の被害想定条件に帰省や観光などで人口が増加する「正月の夕方」と「ゴールデンウィークの正午」を追加し、被害想定項目に「宅地の液状化」「介護・福祉機能の支障」「海岸施設被害」の3項目を追加することとしています。私は「島根県も、地震発生想定シーンに帰省客や観光客を考慮した時期を取り入れるべきであり、被害想定項目に『介護・福祉機能の支障』を追加し、さらなる被害想定を精緻化する」と求めました。森本防災部長は「被害想定を精緻化することにより、必要な対策が明確となって効果的な取り組みにつながるものもあり得る。今後、能登半島地震を踏まえ、被害状況の精査や新たな指針等が示された時には、被害想定について必要な見直しを検討したい」と答えました。

●能登半島地震を通じ、格段に高まった県民の不安

私は、能登半島の視察と並行して、島根半島の現地調査も行いました。島根半島的美保関町では「避難ルートとなっている道路の真下に宍道断層が走っています。安全に避難できるのでしょうか」との声が寄せられ、島根町では「今の避難計画は原発の方向に向かうルートになっている。持田トンネルのすぐそばに宍道断層が走り、土砂崩れやトンネル崩落が心配」との不安の声など、多くの県民は避難計画の実効性に疑問を感じています。私は、丸山達也知事に「地元のありとあらゆる声を直接聞くべきであり、住民の不安、懸念、要望に最大限寄り添って、説明責任を尽くすべき」と迫りました。

【視察を終えて】 地震・津波は止めることができないけれども、原発は止めることができるし、止めなければならない。

島根原発2号機再稼働に対する県民の理解と納得はなく、12月の再稼働など絶対に認められない。（尾村利成）